

独立行政法人福祉医療機構 助成事業

特定非営利活動法人 フードバンク信州

—— 食を通じた地域支え合いネットワーク事業 ——

# 報告書

食でつながるありがとう♪



平成30年3月



	page
はじめに .....	1
<b>I フードバンク信州の活動</b>	
事業の総括 .....	2
事業内容と実績 .....	4
成果と課題 .....	7
<b>II 活動実績</b>	
1. 食料の受入実績 .....	8
2. フードドライブ実績 .....	9
3. 食料の提供実績 .....	11
<b>III 協働による活動推進</b>	
ななせ仲まち園 .....	12
上田地域拠点 上田ともいき処 .....	12
松本地域拠点 ワーカーズコープ松本事業所 .....	13
飯田地域拠点 ほほえみのゆめプロジェクト .....	13
協力企業の声 .....	14
<b>IV 活動の啓発と担い手養成</b>	
フードバンク活動推進セミナー（担い手養成講座）の開催 .....	15
セミナー事例発表要旨 .....	16
<b>V 居場所づくり活動と食育活動への食材提供</b>	
● フードバンク信州と連携した一場所多役の居場所の運営 .....	20
● 下伊那郡大鹿小学校食育活動 .....	22
<b>VI 資料編</b>	
● “信州縦断フードドライブ”年末キャンペーン (2017) .....	23
● 広報活動報告 .....	24

# はじめに

「フードバンク信州」は、平成27年10月7日に設立総会を開催し、平成28年2月23日に特定非営利活動法人として成立した団体です。食品ロスの削減と資源の有効活用並びに生活困窮者支援のネットワークづくりを目指して活動しています。

フードバンク信州は、フードバンクの役割と活動内容への理解を広げるために、フードバンク活動推進セミナー及び担い手養成講座を開催してきました。これに伴い、フードドライブ（ご家庭等で余っている食品を持ち寄り寄付していただく活動）は、県内各地で飛躍的に拡大しています。

一方、食料支援の面では、生活困窮者自立支援制度との連携による食料提供を中心としつつ、貧困家庭の子どもに対し学習支援を行う活動における食料提供の面で大きな役割を果たしてきました。

協力企業をはじめ、各地域、各分野において御支援いただいた皆様により感謝申し上げますとともに、これからも変わらぬご協力をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

特定非営利活動法人  
フードバンク信州  
理事長 佐藤 豊





## I フードバンク信州の活動

### 【事業の総括】

「食品ロスの削減」問題と「生活困窮者への食料支援」問題は、深刻な社会課題となっていることから、フードバンク信州は、多様な機関、団体、住民等との協働により、「食品ロス」と「困窮者支援」の2つの課題をつなぎ、「食」を通じた地域の支え合いの仕組みを構築し、地域の中で普及、定着させていく活動に取り組んだ。

流通の過程で廃棄される食品や、家庭で眠っている食品の寄贈を受け、関係機関・団体のネットワークを活かして、食料支援を必要としている人につなぐ活動を長野県内の各地域において展開する支え合いのしくみを築くため、平成29年度は次の基本方針に基づいて事業を実施した。

### 〔活動の目標〕

- ① 食品ロスの削減と資源の有効活用
- ② 生活困窮者支援のネットワークづくり

### 〔基本方針〕



#### 多様な連携によるフードバンク活動

食品ロスの削減と生活困窮者の自立支援を目的として活動を進めるため、企業、支援団体、行政、生協、農協、労働団体、市民活動団体、貧困者支援団体、社会福祉施設など、食にかかわる団体のネットワークによるフードバンク活動を展開するしくみづくりを進める。



#### 地域拠点の整備とネットワークの構築

県下全域にわたる食料寄贈と食料支援を効率的に展開するため、フードバンク信州の地域拠点の設置をすすめ、社会資源の地域内循環と、広域的な循環の双方のメリットを併せた活動展開の体制づくりを進める。

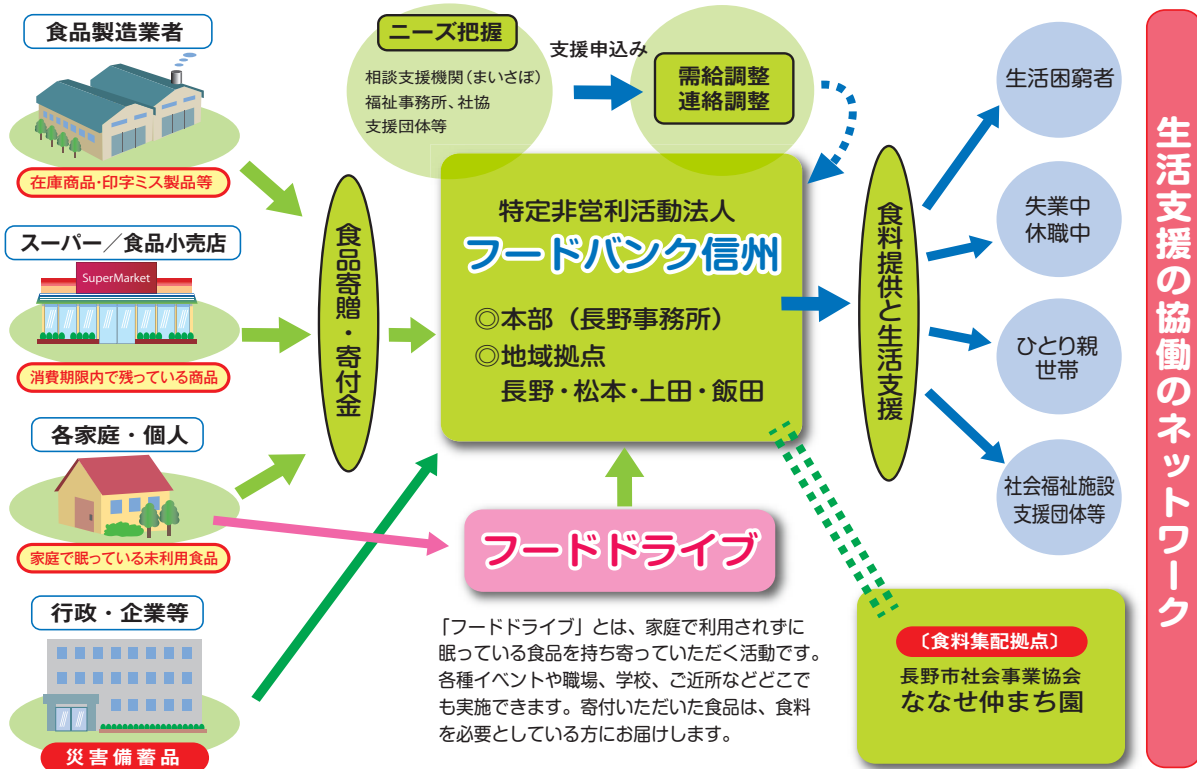


#### フードバンク活動の啓発と担い手の養成

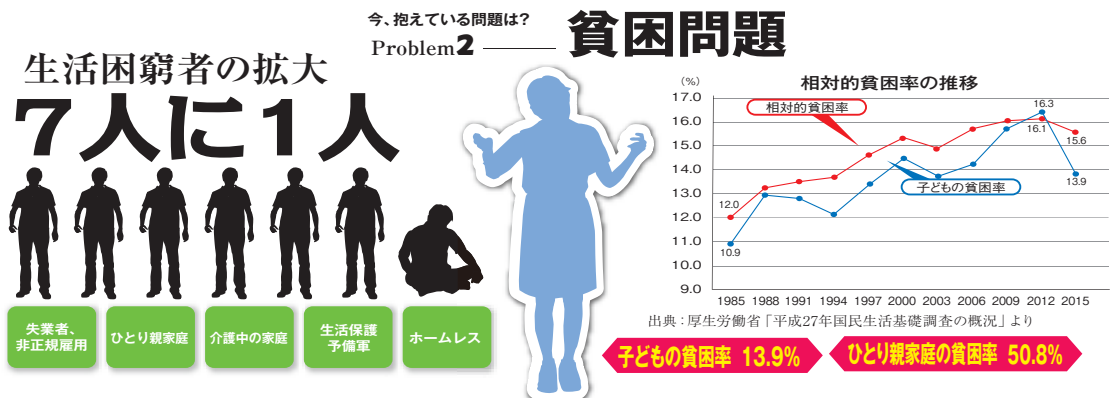
地域拠点の整備を進めるうえで、それぞれの地域で活動を支える人材の確保が課題となっているため、フードバンクセミナー及び担い手養成講座を開催し、フードドライブの運営などを継続的に担うボランティアの養成、確保をはかる。

## 〔活動体制〕

フードバンク信州は、個人や行政、企業・団体から寄贈していただいた食品を、生活が困窮し支援を必要としている人々や福祉分野の施設・団体等に届けます。



## 〔活動課題〕



## 【事業内容と実績】

### 1 多様な連携によるフードバンク活動の実施

企業や家庭から食品の寄贈を受け、生活困窮者やひとり親家庭等で支援を必要としている世帯及び相談支援窓口などに提供し、自立につなげる支援を行った。

フードバンク活動への理解、協力をしていただく企業、団体、個人等が次第に増加し、フードバンク信州に持ち込まれた寄贈食料は、約26トンとなり平成28年度の1.5倍となった。

#### (1) 企業・団体等から食料寄贈

平成30年3月末で食料寄贈についての合意書を取り交わしている企業は21社となり、協力団体では、J A長野中央会、長野県労働者福祉協議会、コープながの、ワーカーズコープ、高齢者生活協同組合などの多様な団体に参加協力いただいた。

企業からの寄贈は、食品関連企業からの余剰食料の寄贈の他、一般企業から災害備蓄品の入れ替えによる大量の食料提供も多数あった。

#### (2) 家庭からの食料寄贈

家庭からの食料寄贈は、フードドライブの開催が飛躍的に増加したことから、年間で約11トンの食料が集まり、全寄贈食品の約4割を占めた。

フードドライブは、一般市民に呼びかけ、家庭で利用されずに眠っている食品を持ち寄っていただく企画で、フードバンク信州が長野市、松本市、上田市で毎月1回開催する定期開催と、多様な団体等のイベントなどと協力して開催した企画を合わせて、91回のフードドライブが開催された。連携団体や食料寄贈に参加する住民が増加し、地域にフードバンク活動を広め、地域内で食料を循環させる動きが生まれてきた。

#### (3) 食料の提供

フードバンク信州が受け入れた食料は、県内の生活・就労支援センター（まいさぼ23か所）や民間の支援団体を通して、食料支援が必要な個人に対して提供するとともに、相談窓口や支援団体、社会福祉施設、子どもの居場所などの支援に活用した。

平成29年度中の個人支援件数は1,400件を超え、支援団体、施設など70団体に提供、子どもの居場所には5団体に提供した。



▲企業から災害備蓄品が大量に寄贈された



▲フードドライブは誰でも参加できる場として  
関心が高まっている

## 2 地域拠点の整備とネットワークの構築

食料寄贈と食料提供の活動を県下全域で効率的、迅速に展開するため、活動の地域拠点を4地域（長野、上田、松本、飯田）に設置し運営した。社会資源の地域内循環と、広域的な循環の双方のメリットを併せ活用できる体制づくりを進めた。

### (1) 地域拠点の運営

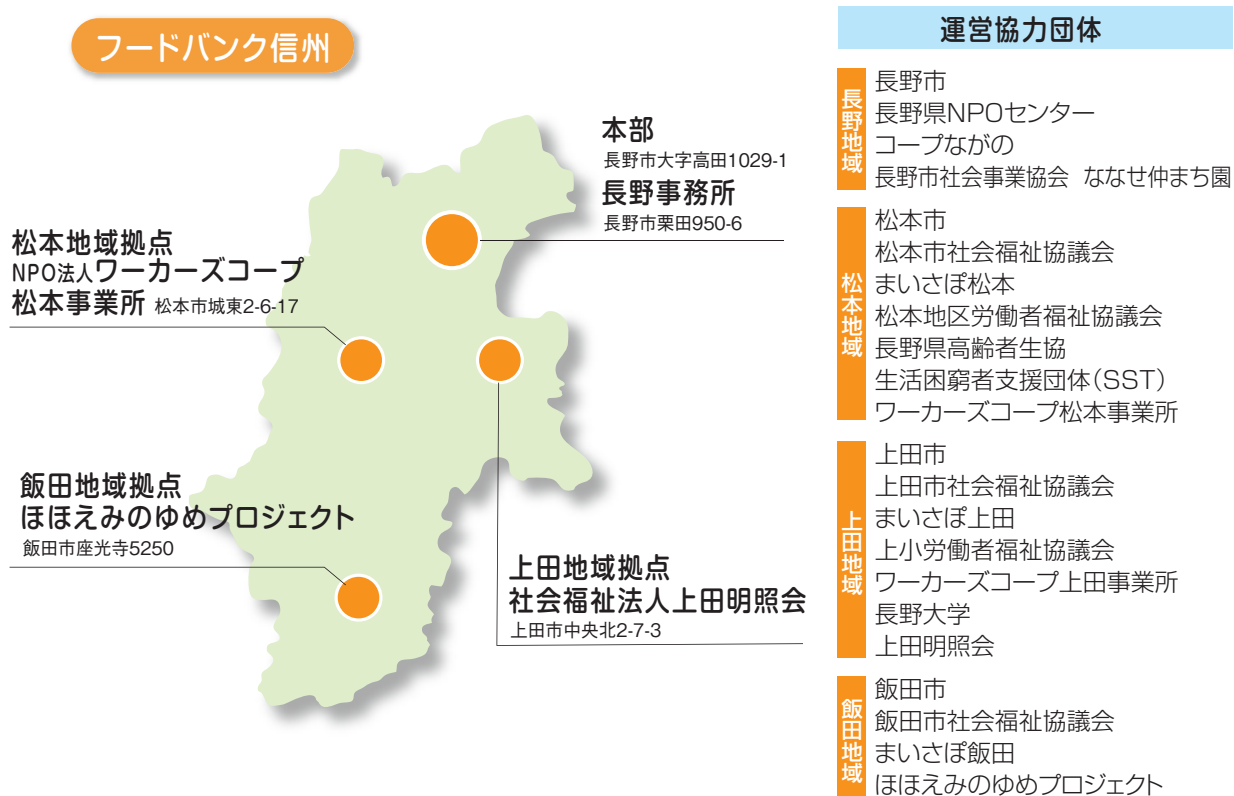
地域拠点は、下記の団体に事務所としての役割を委託し、地域の中で食料を循環する仕組みの核として活動を展開、それぞれの地域の中で関係団体との協働による効果的な支援のネットワークが広がってきた。

- ・長野地域拠点 長野栗田事務所
- ・松本地域拠点 ワークスコープ松本事業所
- ・上田地域拠点 社会福祉法人上田明照会
- ・飯田地域拠点 ほほえみのゆめプロジェクト

### (2) 地域関係者会議の開催

地域の関係者が連携して、地域内で食料の循環を図るしくみを構築するため、拠点設置地域において地域関係者会議を開催し、協働による活動展開の基盤づくりを行った。

平成29年度は、長野・松本・上田の3地域で関係者会議を開催し、フードドライブの開催、地域拠点の運営のためのネットワークの強化を図った。



### 3 フードバンク活動の啓発と担い手養成

フードバンク活動についての理解を広め、協力者を増やすとともに、地域で活動を主体的に担う人材を確保するための取組みに努めた。

#### ●フードバンク活動推進セミナー（担い手養成講座の開催）

フードバンク活動を県内の各地域の取り組みとして広げるため、支援機関・団体、企業、行政、住民等、関心がある人たちを対象にフードバンク活動について、考えるためのセミナーを長野市、上田市、松本市、飯田市の4地域で開催し、延べ140人が参加した。

セミナーは、担い手養成講座としても位置づけ、活動参加のキッカケづくりのため、それぞれの地域で、新たに活動を始めたグループや独自の活動をしている団体等の活動を発表してもらい、それを踏まえて、フードドライブの企画書づくりのグループワークを行い、具体的な活動参加につなげる一歩となった。



▲担い手養成講座でフードドライブの企画書作成にトライし、実現をめざした（飯田セミナー）



▲作り上げたフードドライブの企画を発表し、それぞれできそうなことを考えた（上田セミナー）

### 4 居場所づくり支援と食育活動への協力

フードバンクからの食料提供先として、子どもの居場所活動や子どもの食育活動団体への食料提供に新たに取り組んだ。

フードバンクから食材の一部を提供することで、「日本では大量の食料が捨てられていること」「その食料を利用することで資源の無駄を減らせること」「食料に困っている人が日本にもいること」「そういう食料を集めてほしい人に届けるのがフードバンクなんだ」ということを、子どもたちに気づいてもらう機会となった。

次代を担う子どもたちを通して、フードバンク活動が社会に広がるのが期待できる。



▲提供した食材で、見事なパーティ料理ができた。（ながのこどもわくわくカフェ）



▲短期大学生が食材の働きについて、こどもたちに説明した（ながのこどもわくわくカフェ）



## 【成果と課題】

### ○ 多分野の連携と参加協力団体が拡大

フードドライブの開催は、県内全域に広がり、実施主体も多様な団体や機関に広がったことは、「食品ロス削減」と「生活困窮者支援」を目指すフードバンクへの関心が高まったことを示している。

実施団体は、行政の環境、福祉、子育て支援などの部署、団体では社会福祉協議会、JA、労働関係団体、商工会議所、ライオンズクラブなど、また企業内での開催、高校の文化祭での開催等々、この1年間を通して大きく広がりを見せた。

「食」を切り口にした活動は、一人ひとりの生活に直接かかわる問題であるので、今後より多く地域での取り組みに広がることが期待される。

### ○ 食料循環の社会的仕組みづくり

「食品ロス」問題と「貧困者の食料支援」の問題は、社会的に深刻な課題でありながら、具体的な活動は、企業の善意やフードバンクなど民間の自主的な活動に任されているのが現状である。この2つの課題に対応するには、一部の民間活動に頼るのではなく、行政と企業、民間活動団体などが協働して、「食」を無駄にしないで活用する資源循環の「仕組み」づくりを進め、社会に定着した動きを作っていくことが求められる。

### ○ 次代を担う子どもたちに伝える

フードバンク活動を通して、小学校の食育活動への協力依頼や、高校の家庭科の授業での講義依頼など、新たな動きが生まれている。これからの環境問題、貧困問題は、大人だけの問題としてではなく、次代を担う子どもたちにも、フードバンク活動の取り組みを伝えることで、食料を大切にすること、食料が足りない人がいることに気づく機会を提供することが大切である。子どもや若者の関心を高めることで、将来の活動の担い手養成につながる可能性がある。



▲フードバンク信州からの食料を利用した食育の日（大鹿小学校）

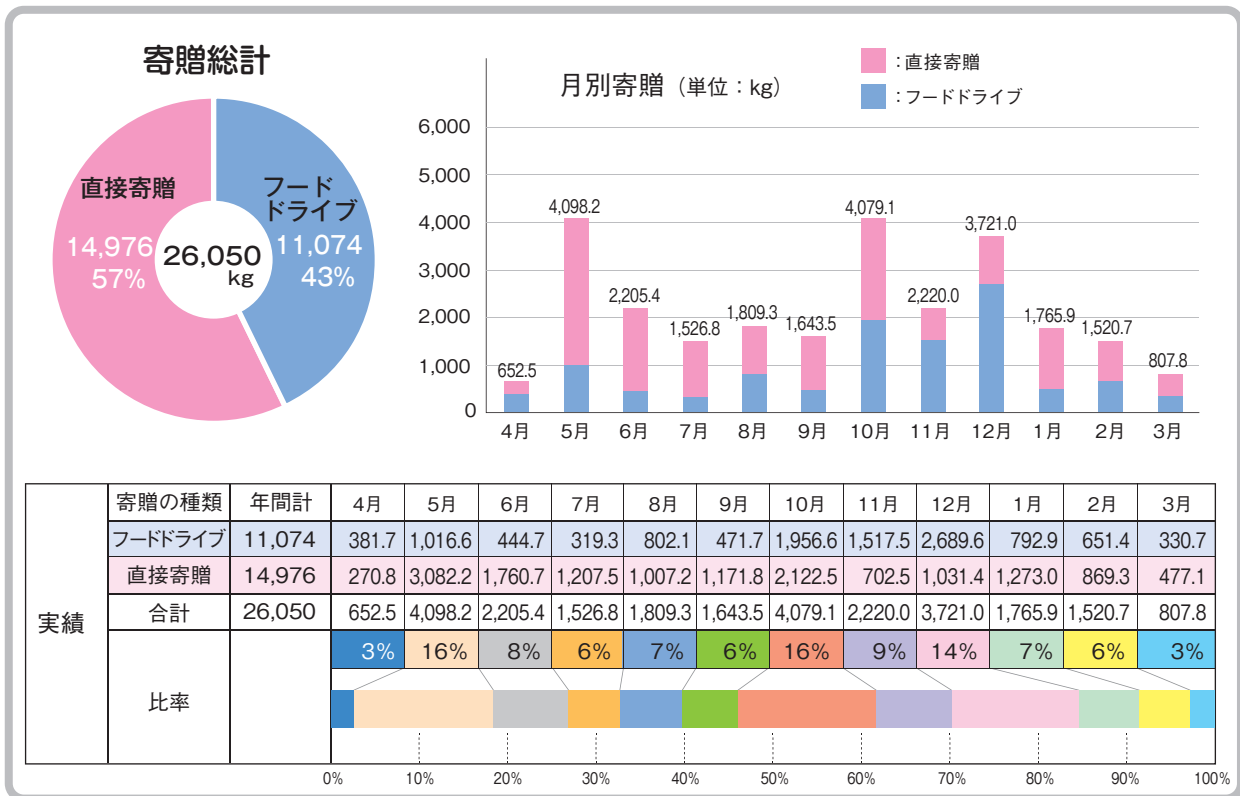


## II 活動実績

### 1. 食料の受入実績

フードバンク信州として1年間に集めた食料は、26トンになった。八十二銀行様、長野銀行様、飯田信用金庫様、NTT長野支店様などからの災害備蓄品切り替えによる大量の提供があった。

#### 2017年度 寄贈品実績総括



#### 2017年度 寄贈記録 (月別集計表)

総合計	総計				企業				団体				個人			
	寄贈者	寄贈数	数量	重量(kg)	寄贈者	寄贈数	数量	重量(kg)	寄贈者	寄贈数	数量	重量(kg)	寄贈者	寄贈数	数量	重量(kg)
総合計	143	249	52,581	14,976.1	18	28	41,731	10,156.1	47	115	8,547	2,539.8	78	106	2,303	2,280.2
4月	13	15	362	270.8	1	1	216	29.2	3	5	61	76.6	9	9	85	165.0
5月	19	22	3,009	3,082.2	2	2	1,530	2,766.9	11	14	1,334	277.6	6	6	145	37.7
6月	16	18	9,080	1,760.7	1	1	8,112	1,622.4	8	10	722	109.6	7	7	246	28.7
7月	12	16	7,305	1,207.5	3	4	6,880	1,085.8	4	7	384	106.3	5	5	41	15.4
8月	23	26	9,894	1,007.2	2	2	8,499	601.1	10	12	1,139	248.3	11	12	256	157.8
9月	19	24	1,497	1,171.8	2	3	364	599.8	11	15	955	523.3	6	6	178	48.7
10月	21	25	3,898	2,122.5	4	4	2,684	1,436.6	6	10	1,057	367.0	11	11	157	318.9
11月	18	19	3,528	702.5	3	3	2,952	489.2	5	6	408	93.8	10	10	168	119.5
12月	22	23	7,930	1,031.5	4	4	7,458	543.2	6	7	228	38.1	12	12	244	450.2
1月	14	17	2,353	1,273.0	1	1	1,846	718.6	6	9	298	59.5	7	7	209	494.9
2月	22	23	2,219	869.3	3	3	1,190	263.3	9	10	802	345.6	10	10	227	260.4
3月	19	21	1,506	477.1					8	10	1,159	294.1	11	11	347	183.0

## 2. フードドライブ実績

延べ開催数は昨年より20回増え、91回になった。長野日産自動車様では県内33店舗で5月と8月にそれぞれ1週間開催された。そのほか、団体のイベントや企業内、高校などで開催する多様なケースも出てきた。

### 2017年度 フードドライブ実施状況

#### 【総計】

	回数	点数	重量 (kg)
定期開催	36	7,757	4,665.2
イベント	55	15,015	6,409.0
合計	91	22,772	11,074.2

#### 【月別総計】

開催月	全体計			定期開催計			イベント開催計		
	点数	重量 (kg)	寄贈者	点数	重量 (kg)	寄贈者	点数	重量 (kg)	寄贈者
4月	1,288	382	49	507	193	49	781	189	
5月	3,511	1,016	29	306	160	29	3,205	856	
6月	1,217	445	61	1,132	420	49	85	24	12
7月	1,411	319	110	395	90	37	1,016	230	73
8月	2,403	802	60	193	47	19	2,210	755	41
9月	859	472	83	512	279	44	347	193	39
10月	2,911	1,957	148	592	507	65	2,319	1,450	83
11月	1,858	1,518	67	619	657	58	1,239	861	9
12月	3,983	2,690	345	1,156	1,140	92	2,827	1,550	253
1月	1,061	493	212	830	449	72	231	44	140
2月	1,151	651	101	1,081	564	78	70	87	23
3月	1,119	331	52	434	159	52	685	171	
合計	22,772	11,074	1317	7,757	4,665	644	15,015	6,409	673

#### 定期開催

開催月	長野：もんぜん			松本：城のまち			上田：ともいき処		
	点数	重量 (kg)	寄贈者	点数	重量 (kg)	寄贈者	点数	重量 (kg)	寄贈者
4月	165	53.4	12	162	91.1	21	180	48.7	16
5月	104	20.8	5	71	84.3	10	131	55.2	14
6月	125	24.5	7	502	100.3	18	505	295.5	24
7月	58	5.6	4	239	34.0	16	98	50.0	17
8月	81	10.0	3	58	10.9	6	54	26.0	10
9月	221	30.9	12	155	153.6	18	136	94.6	14
10月	44	17.8	4	228	154.8	15	320	333.9	46
11月	41	16.4	3	192	212.9	11	386	427.5	44
12月	381	124.3	30	272	99.1	19	503	916.6	43
1月	207	100.6	13	318	127.4	37	305	221.0	22
2月	208	22.8	10	350	129.9	33	523	411.5	35
3月	35	11.0	8	151	27.8	21	248	120.5	23
合計	1,670	438.1	111	2,698	1,226.1	225	3,389	3,001.0	308

毎月第2土曜日 10:00~13:00

毎月第3木曜日 10:00~13:00

毎月第1土曜日 10:00~11:30

## フードドライブイベント

### 〈イベント明細〉

	開催月	イベント名	会場	点数	重量 (kg)	寄贈者
1	4月29日	大北地区メーデー	大田市文化会館	131	55.2	
2	4月29日	飯田地区メーデー		101	15.2	
3	4月29日	松本地区メーデー		322	73.4	
4	4月29日	塩尻地区メーデー		73	13.2	
5	4月29日	安曇野地区メーデー		154	31.5	
6	5月1日	長野県中央メーデー	城山公園	677	132	
7	4月29日～5月7日	長野日産フェア	全県33店舗	2,204	601.4	
8	5月17日	千曲市男女共同参画セミナー	あんずホール	217	69.2	
9	5月24日	J A長野県ビル	J Aビル	107	53.1	
10	6月3日	須坂市もったいない市	須坂市	85	24.4	12
11	7月4日～5日	長野日大高校	長野市	170	22.3	
12	7月7日	岡谷市男女共同参画セミナー	岡谷あいとぴあ	204	37.6	
13	7月9日	シニア大学	県社会福祉総合センター	85	32.4	18
14	7月17日	たてしな風の子環境フェア	立科町権現山運動公園	43	5.3	
15	7月25日	シニア大学	県社会福祉総合センター	79	18.3	10
16	7月29日～30日	信州環境フェア	長野市ビックハット	320	80.9	39
17	7月30日	権堂〇〇フェスタ	長野市権堂イーストプラザ	44	21.9	6
18	7月31日	自治労フードドライブ	長野市	71	11	
19	8月1日～2日	シニア大学	県社会福祉総合センター	149	21.2	16
20	8月5日～13日	長野日産フェア	全県33店舗	1,735	535.8	
21	8月27日	かたくりの里祭り	朝日村	139	143.6	
22	8月29日	長野市社会福祉大会	長野市	123	40	25
23	8月30日	長野県身体障害者福祉大会	上田市サントミュージゼ	64	14.6	
24	9月29日	木曾町男女共同参画	文化交流センター	153	99.9	19
25	9月30日	上田市ふれあい祭り	上田市創造館	194	92.7	20
26	10月1日	長野県協同組合フェスティバル	安曇野スイス村サンモリッツ	31	28.1	10
27	10月1日	長野中央ライオンズクラブ	長野駅コンコース	1,070	299	
28	10月6日	木曾郡民生児童委員協議会	大桑村	242	133.2	
29	10月8日	長野西高等学校中条校	長野市	132	27.7	
30	10月14日	須坂市ふれあい広場	メセナホール前広場	242	292.7	
31	10月17日	シニア大学	県社会福祉総合センター	155	31.5	
32	10月21日	松本市消費生活展	あがたの森文化会館	16	4.6	8
33	10月21日	信濃町社会福祉協議会		102	22.5	
34	10月22日	第12回佐久ふれあい広場	佐久市創造館北側	198	593	28
35	10月30日	第1回食品ロス削減全国大会	松本市芸術館	131	17.8	37
36	11月5日	男女共同参画社会をめざす伊那市民のつどい	伊那市役所多目的ホール	56	16.5	9
37	11月11日	佐久市農業祭	佐久市駒場公園・佐久創造館	30	105.2	
38	11月11日～12日	豊丘祭り	豊丘村役場周辺	80	51.6	
39	11月13日	長野合庁オフィスFD	長野市振興局1F	344	58.1	

## 〈イベント明細〉

	開催月	イベント名	会場	点数	重量 (kg)	寄贈者
40	11月18日	大町えびす講ハーベストフェスタ	大町商工会議所	485	224.7	
41	11月23日	木曾労福協まつり	木曾地区労働者福祉協議会	156	25	
42	11月23日	飯田市勤労者まつり	飯田市勤労者福祉センター	74	318.5	
43	11月25日	白馬村社会福祉大会	白馬村社会福祉協議会	14	61.1	
44	12月4日	信州縦断フードドライブ・飯田	飯田合同庁舎	148	84.2	15
45	12月7日	ライオンズクラブFWT	メトロポリタンホテル	627	128.8	
46	12月11日～12日	シニア大学	県社会福祉総合センター	47	10	
47	12月14日	長野県庁オフィスFD	長野県庁	376	100.5	45
48	12月16日	ながの環境団体大集合	生涯学習センター	61	23.6	10
49	12月16日～17日	安曇野フードドライブ	安曇野市役所	1,488	1176.7	157
50	12月19日～20日	シニア大学	県社会福祉総合センター	80	25.8	26
51	1月24日～26日	三洋グラビアオフィスFD	三洋グラビア社内	231	43.9	140
52	2月18日	小海町健康福祉まつり	小海町総合センター	70	87.2	23
53	3月13日	長野市商工会議所女性会		219	55.7	
54	3月14日	信濃町社会福祉協議会		347	69.9	
55	3月15日	JA長野県中央会	JAビル	119	45.8	
合 計				15,015	6,409	

## 3. 食料の提供実績

区分	件数等	重量 (kg)	備 考
個人配送	1,442件	8,652	申込—県内まいさぼを通じて受付 配布—ななせ仲まち園から直接郵送 ・連携窓口 さいさぼ23ヶ所 ・利用自治体 43市町村(553名)
相談支援機関、 福祉施設・団体等	70団体	16,318	・地域の相談支援機関の窓口 ・社会福祉施設、支援団体
子どもの居場所	5団体	260	
計		25,230	



### Ⅲ 協働による活動推進

フードバンク信州は、県内の4地域に活動拠点を設置し、地域の関係団体や機関との連携により、継続的に活動を展開する基盤づくりに努めた。各地域の活動拠点事務所を担っている団体の取組みと協力企業の声を紹介する。

#### 食料の受け入れ・保管・ 配送拠点

長野市社会事業協会 ななせ仲まち園 園長 青柳 與昌 さん

ななせ仲まち園では、社会福祉法の改正による社会福祉法人の社会貢献事業の先取りとして、H27年度からセカンドハーベスト・ジャパンから食糧提供を受け県下の「まいさぼ」を通して個別の食糧支援を行うことから活動を始めました。H27年10月、フードバンク信州が設立され、団体会員として参加し、寄付いただいた食品の保管、仕分け、個別配送の拠点としての役割を担っています。開始当初は月数件の支援でしたが、現在年間1,400件を超える個別支援を行う状況に至っています。フードバンク信州が実施するフードドライブ等で寄附いただいた食糧がないと、個別支援の食糧の絶対量が不足するという状態になってきています。今、北信地区においても行政及び関係団体等にフードドライブ実施について協力、連携していただいております。生活困窮者に対する支援のひとつのツールとしてフードバンクが認識されつつあると思っています。この広がりをしっかりとした関係者の輪という形にしていくことが大切と考えています。



#### 上田地域拠点事務所

社会福祉法人上田明照会 上田ともいき処代表 武捨 幸雄 さん

活動の入り口は、2011年3月の東日本大震災直後に避難者支援活動をスタートさせ、福島原発事故によって避難されてくる方々の生活支援を地元の皆様や、インターネットを通じて全国の皆様のご協力をいただいて展開したことでした。

活動をすすめる中で、フードバンク活動に関心をもち、私たちにも何かお役に立つことがあるのではないかと考えていたところ、フードバンク信州が立ち上がることを知り、連携させていただき、上田地域で毎月1回定期開催するフードドライブ活動を担当することになりました。こうして明照会の支援活動は、食品ロス・貧困問題とつながることになりました。



フードドライブ活動… 食品を集めるだけなら、やろうと思えばできるでしょう。しかし、集めてこれを管理し、食品を必要とする方々にお届けするまでの活動をひとつの集団で行うのは容易ではありません。私たちの活動は、広報して集め、分類・管理・品出しが主な役割です。

今後の課題としては、社会福祉法人としての公益的取り組みである地域貢献活動をさらに充実しつつ、フードドライブのノウハウを蓄積しながら、周辺地域の活動を支援できるようになればと考えているところです。

NPO法人ワーカーズコープはH27年12月からフードバンク信州の松本拠点として、毎月定例で開催しているフードドライブを担い、食品保管、管理、配布等の活動を実施してきました。H29年度は、定例のフードドライブの他に、「食品ロス削減全国大会」などのイベントでフードドライブに協力するなど拠点としての定着が大きく、企業でのフードドライブ等からも寄贈食品が届き、相談支援機関に届ける食品も多かったと思います。

企業の社会参画活動としてもフードドライブの活動は取り組みやすい利点があったと推測いたします。お金がかからず、フードロスを削減し、支援もできる活動は誰にでもできる活動であることを実証しています。

フードバンクの活動を継続させたことでやはり市民意識の変化に繋がられました（相対的貧困の理解）。これらの継続した活動は子どもの困窮支援、特に子どもの居場所事業「なみカフェ」への定期的な食材提供が安定し、利用する子ども達へ家庭料理の豊かさを伝えられました。留まることなく一定の食材の流れができたことは、フードバンク活動の要であると感じさせられました。



飯田地域の事務所は長野市の本部までは165キロの距離があります。そのため効率的な支援につなげるため、地域内で寄贈された食料は地域内で循環させることで、フードバンク信州と連携して食料を必要とされている方たちに支援を行っています。

H29年度中に地域の行政、企業、団体、個人から寄贈を頂いた食料は約3,000kgとなり、協力者が増えています。

また、様々なイベントや団体で実施されたフードドライブの企画を応援、開催支援、寄贈品の受け入れを行いました。フードドライブは、飯田地区労働者福祉協議会、飯田消費者の会、企業などと連携して、年間延べ20回開催し、約500kgの食料が集まりました。



《食料支援》 地域からの寄贈や、フードドライブで受け入れた食料は、困窮者相談支援機関を通じて、食料を必要とされている方たちや、子どもの居場所に関わる団体、個人の支援に協力しました。社会福祉施設のイベントに食糧提供を行ったり、新たな試みとして、災害用備蓄食料等を使い、生きる力を育む食育の一環として乾パンを利用したおやつ作りを提案しました。

今後地域で活動基盤を安定させるためには、定期的にフードドライブを続けていかれる団体が増えて、「食」の利用と支援にかかわる団体や、人たちが、広く連携できる地域の仕組みが必要だと感じています。

## 協力企業の声

### 株式会社八十二銀行

総務部長  
笠原 昭寛 様



平成29年6月、東日本大震災以降本支店に備蓄した災害備蓄用のパンの賞味期限到来に伴う入替に際し、有効活用方法を長野県健康福祉部に相談したところ生活困窮者支援を行っているフードバンク信州様を紹介いただき、地域活性化に直結するものとしてパン8,212缶を寄贈させていただきました。

弊行は「健全経営を堅持し、もって地域社会の発展に寄与する」を経営理念に掲げ、役職員一人ひとりが地域社会の発展に貢献し、企業の社会的責任を果たしていくことが使命であると考えています。引続き積極的に取り組んで参ります。

### 長野日産自動車株式会社

営業業務部係長  
竹折 直樹 様



かねてより長野日産では自動車販売を通じての地域社会への恩返しができないかと考えておりました。そこで長野県全域に店舗を構えるメリットを生かし、各地域の店舗でフードドライブを開催することに致しました。

従業員だけの活動ではなく、弊社にご来店されるお客様への告知や広告、HP、SNSも活用し、全32店舗で多くの食品を集められ、協力することができました。この活動を通じて今後も地域社会とのつながりを深め、貢献活動に取り組んでまいります。

### セントラルパック株式会社

品質保証部長  
青木 幸一 様



弊社は信州松本でレトルト食品を中心としたOEM生産を手掛け約30年。日々カレー、釜飯の素等を中心に約15万袋/日を生産していますが、実は良品にも関わらず廃棄されてしまう商品がある事を皆さんは知っていますか？それは流通形態（段ボールに30入り等）にならない端数品の事です。『もったいない』ですよね、この考えをブランドオーナー様（㈱中村屋様、ヤマモリ㈱様）にもご理解頂き、フードバンク事業に協力を始めて7年目。これからは特に地元信州での協力に力を入れて参ります。

### 柄木田製粉株式会社

総務本部長  
松沢 茂 様



飽食の時代といわれ、いつでもどこでも食べ物を口にすることができる社会の中で大量のフードロスが発生しています。一方では、その日の食に困窮している人たちがいます。この現状への対処を目的としてフードバンク信州が設立されました。当社も微力ながら、この活動に協力させていただいております。当社は小麦粉と麺類を製造販売する食品会社です。この協力を通じて、食品会社として、食と食を取り巻く環境について社内でも考察するきっかけの一つとしております。





## Ⅳ 活動の啓発と担い手養成

### フードバンク活動推進セミナー（担い手養成講座）の開催

フードバンク活動の展開は、企業との連携、住民との協力、行政との協働などにより、多様な資源の活動と担い手の確保が課題となっており、今後県内各地域における協働活動として拡大・普及するため県内4会場でセミナーを開催した。4会場で合計約140名が参加した。

〔開催地・期日〕 ・上田市 平成30年1月24日 ・松本市 平成30年1月26日  
・長野市 平成30年2月21日 ・飯田市 平成30年3月 8日

〔プログラム〕

○基調講演 「食」と「支援」と「ネットワーク」

講師 自立生活サポートセンター・もやい理事長 大西 連 さん

○事例発表 各会場2団体が活動の取組みについて報告

（各報告要旨16ページから19ページに掲載）

○担い手養成講座（グループワーク）

フードバンク活動に参加する場として、フードドライブをそれぞれの地域や団体で開催するためのモデル企画づくりのワークショップを実施

### 基調講演要旨

#### 「食」と「支援」と「ネットワーク」

- 近年の日本の貧困問題は、昔に比べ血縁が少なくなり、会社の倒産や病気・障がいなどでいったん支えが失われてしまうと、誰もが貧困になる可能性がある。一方で、同じ条件でも誰でも貧困になるわけではなく、普遍性（リスク）と個別性（個別の困難さ）により、貧困は単純には表れない。
- 相対的貧困者は、標準的な生活以下の生活をしている層で、「貧困」であると声を上げにくい。私たちのすぐそばに貧困は存在するのに、「見えにくい貧困」が増えている。孤立化が進み、「経済的な貧困」と「つながりの貧困」が生まれている。
- 「貧困」の相談はかつてはシンプルであったが、2000年代以降、困難を抱える人の課題は複雑化し、背景も重層化しており、一つの課題に対処するというよりは、複雑につながった複数の社会的課題へのアプローチが求められている。貧困支援は一つの団体では解決できない課題であり、地域で取り組むことが必要である。
- 「食」を切り口にした支援は、次のような点で入り口の支援として取り組みやすく効果的な手段である。
  - 生活を直接的に支えられる、○金銭給付よりもハードルが低い、○つながり作りのキッカケになる、○多様な関係者をつなげるハブになる
- 見えにくい貧困の普遍的なニーズに応える持続可能な活動をどう作るか、今地域で成功事例を作っていく時期だといえる。フードバンク活動を通して「食」による支援の長野モデルを示していくことが求められる。



▲自立生活サポートセンター・もやい  
理事長 大西 連さん

## 長野 1

### 社協の生活支援とフードバンク事業

報告者 坂城町社会福祉協議会

#### ○フードバンク事業開始の動機

社協の困窮者自立支援で、「今日、食べるものがない」という相談者のニーズに応えるために、既存のフードバンクからの食料が届くまでのつなぎができればよいのではないかと、少しからでもできるのではないかと…ということで独自の事業を始めることに。

#### ○活動

H28年4月から、社協だより等で町民に協力を呼び掛け事業を開始。28・29年度併せて寄贈された食料により49世帯への支援ができた。

#### ○成果と課題

フードバンク事業を通じて「貧困」が他人ごとではないことを、少しずつ住民にわかってもらえるようになり、食料支援への関心が高まった。今後の課題としては、一時的な食料支援に終わらずに、場合によっては継続的・定期的な支援を行い、世帯の生活を見守る活動の可能性も検討していきたい。



## 長野 2

### シニア大学のフードドライブ活動

報告者 シニア大学長野学部フードドライブグループ

#### ○フードドライブ活動の立ち上げ

H28年度のシニア大学自治会の自主活動として「フードドライブ活動」を取り上げ、2年生火曜日クラスで3回のフードドライブを実施した。H29年度はシニア大学を卒業後、同好の同期生6人を募り「シニア大学フードドライブグループ」を立ち上げた。

#### ○活動の展開

活動はシニア大学1・2年の在校生に呼びかけ、年間7回のフードドライブを実施した。それとともに在校生の社会参加活動グループのフードドライブも2回実施され、理解と参加が広がってきた。集まった食品はフードバンク信州に寄贈した。

#### ○今後の活動の方向

H30年度に向けて、シニア大学卒業生に参加募集を行ったところ、7人から新規会員として入会希望があり、組織が拡充されることになった。今後、シニア大学のフードドライブ活動としては、食料を集めることだけでなく、活動を通じて地域・社会への働きかけを行い、この考え方が広く浸透し、「支え合う地域をつくる」との機運が醸成されることを目指している。



## 上田 1

# 社会福祉法人が取り組むフードドライブと食料支援

報告者 上田明照会 地域福祉応援室・上田ともいき処

### ○活動の経緯

上田明照会「上田ともいき処」は、地域の福祉課題、特に貧困関連の支援活動（生活相談と自立支援、ひとり親家庭の応援、生活困窮者の緊急支援等）を中心に社会貢献活動に取り組んでいる。その事業の一環として、フードドライブ活動に取り組むこととなった。

### ○上田地域の拠点

フードバンク信州と連携し、関係団体、行政などと協働してH28年6月から毎月第1土曜日に定例開催している上田地域のフードドライブにおいて、食料の保管、仕分け、食料提供など地域の活動拠点としての役割を担っている。

### ○今後の活動の展開

「上田ともいき処」では、無料学習塾や子どもカフェでの食料支援や、生活困窮者の相談機関への食料提供などを通して、社会福祉法人としての地域貢献活動を一層充実させ、周辺地域の活動支援にも広げたい。



## 上田 2

# まいさぼ上田における食料支援

報告者 上田市社会福祉協議会 まいさぼ上田

### ○まいさぼにおける食料支援

まいさぼ相談者で、今日、明日の食べ物がない世帯への緊急支援の必要性から、上田市社会福祉協議会に寄付された米などを支援していたが、年々対象者が増加傾向にあり、フードバンクからの食料提供が不可欠となってきた。

### ○フードドライブ活動への参加

H28年6月から上田明照会を拠点に毎月1回開催している上田地域フードドライブにはまいさぼも運営団体の一員として毎回参加している。集まった食料は、まいさぼ上田の相談者支援に直接役立てることができ、食料支援の量、内容が充実してきた。

### ○食料支援の課題

生活困窮者への食料支援は、本来一時的、緊急的な対応手段であり、恒久的な支援が必要なケースは公的支援機関（福祉事務所等）の支援につなぐべきであるが、諸般の事情により、そうした対応が難しいケースがある。「まいさぼ」の相談の在り方にもかかわり、今後検討が必要である。



## 松本 1

# まいさぼ安曇野のフードドライブ活動

報告者

安曇野市社会福祉協議会 まいさぼ安曇野

### ○フードドライブのきっかけ

“まいさぼ安曇野”（生活・就労支援センター）の窓口で、相談者の中から「今すぐ食べ物がなくて困る」「2・3日分の食べ物があれば大丈夫なんですけど・・・」などの食料にかかわる声が多く聞かれるようになった。この課題に対して独自で支援する方法はないかと考えた結果、身近な地域でのフードドライブの手法とマッチした。

### ○活動の概要

まいさぼ安曇野としてフードドライブの開催することにより、「困窮者」像として「食べ物にも困っている方」が地域にいるということ周知する、その相談窓口として「まいさぼ安曇野」があることを広く周知することとした。市民が分かりやすい場所として、スーパーの協力を得て駐車場の一角を会場として2016年度から開催している。

### ○成果と今後の展開

独自のフードドライブの開催により、フードバンク信州による広域の支援にプラスして独自の支援ができるようになり、個別ニーズへの迅速な対応が可能となった。今後、フードドライブやフードバンク活動は、一層重要となり、活動展開のため地域の多様な団体や組織との関係づくりが重要となる。



## 松本 2

# 寿児童館のフードドライブ活動

報告者

NPO法人ワーカーズコープ松本事業所 寿児童館

### ○きっかけ

児童館に来る子どもたちで、偏食が激しい子、おやつを食べる時間にふざけたり、食べ物を大事にしない子、ひとりぼっちで食事をする子など、気になる子どもの存在に危機感を感じ、「食」の大切さを伝えることから、子どもたち自身ができることを考えた。

### ○子どもたちから発信する活動

子どもたちに「もしも食べられなくなったらどうする。お腹がいっぱいになったらどんな気持ち？」と問いかけ、子どもたちの答えを聞くことからスタート。困窮者支援をしている人から「松本市にも食べられない人がいる」という話を聞いて、子どもたちが保護者や地域の人に呼びかけて、2015年10月から「いどう児童館」でフードドライブを始めた。その後、毎月2日と10日を「ふ～どの日」にして回収する形で継続している。

### ○成果と展開

子どもたちの目線からみた「すてないで、もったいないよ」という絵本を作成し、読み聞かせで啓発活動をしている。食の大切さと食べる楽しさを体験する場として「ハッピー食堂」の開催につながり、継続している。



## 飯田 1

# 食品ロス削減から始めたフードドライブ活動

報告者

飯田消費者の会

### ○食品ロス問題がきっかけ

H28年度に、テレビ、新聞等で報道されている食品ロスの問題に、消費者の会で取り組むこととし、会員対象に冷蔵庫の中身をチェックし、それに対する反省、改善点のアンケートを実施した。

### ○フードバンク活動のお手伝いへ

H29年度になり、フードバンク信州の活動やまいさぼの取組みを学習し、「おいしいものをおいしいうちに」を合言葉にフードドライブを始めることになった。各家庭で消費しきれない食品を月1回の定例会に持ち寄り、まいさぼ飯田に届ける活動として定着した。

### ○今後の活動について（役員の意見）

- ・活動してみて食べることに困っている人がいることを知り驚いた。自分の生活では創造できないことに気づかせてもらい感謝している。多くの人に気づく機会をもってほしい。
- ・フードドライブは、食品ロスにつながるので続けていきたい。
- ・この活動が地域の中で広がっていけばすばらしい。



## 飯田 2

# 労働組合で取り組むフードドライブ活動

報告者

飯田地区労働者福祉協議会

### ○労福協の事業の中で位置づけ

飯田地区労福協の事業計画の中に、諸団体との連携事業として、春の「飯伊地区メーデー」と秋の「勤労者福祉まつり」においてフードドライブの実施を掲げ、フードバンク活動への協力と普及啓発に取り組んでいる。

### ○フードドライブの開催

飯伊地区メーデーでは、フードバンク信州の飯田地区拠点として活動している「ほほえみのゆめプロジェクト」と連携し、H28年最初のフードドライブを開催。29年度も継続開催した。H29年の11月23日には、連合飯田地協と合同で開催している勤労者まつりにおいて実施し、参加者への啓発に努めた。

### ○成果と課題

- ・勤労者まつりでは、フードドライブという言葉に関心を示した人も多くいたことから、継続的に活動の周知を行っていく必要性を感じている。
- ・飯伊地域でも困窮者への支援食料や物資が足りていないという現状があるので、構成組織での取組みを強化し、多くの食料や物資が集まるよう労福協としての取組みを強化していく必要がある。





## V 居場所づくり活動と食育活動への食材提供

### ● フードバンク信州と連携した一場所多役の居場所の運営

**寄稿** NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト 小笠原 憲子

#### 1 事業の概要

NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクトは、平成29年8月1日から長野市権堂イーストプラザにおいて、毎月第1、第3火曜日に、様々な悩みをもつ保護者や子ども達が気軽に通い、「相談や交流」「学習支援」「食事の提供」等が受けられる居場所「ながのこどもわくわくカフェ」を地域の皆さんと開設しています。

#### 2 フードバンク信州と連携した食事提供

一人だけの食事や乳児と母親だけの食事等、家族そろった楽しい食事ができにくくなっている現在、こどもカフェにおける食事は、大勢で食べる食事の楽しさを目指しています。

##### ○活動の担い手

食事作り担当は、長野女子短期大学栄養士養成課程の学生と先生、地域の栄養士の有志の皆さんが交代で担当している。フードバンク信州やボランティアから頂いた食材を工夫して季節感や栄養バランスに配慮した献立作成、調理を行い、食育の場ともなっています。

##### ○食材提供

食材は、フードバンク信州から必要な食材を調達。平成29年8月から平成30年3月までの食事提供における食材の調達状況は、通算59品目であり、この利用により購入食材経費は、安価に抑えられており、大変ありがたく感謝しています。

##### ○食事の場、食育の場

子ども達、学習・食事作りボランティア、来客等その時間にそこにいるみんなと一緒に食事をしています。最近では、障がいのある地域のお兄さんも「今日は何ですか?」と参加し、幼児から大人までいろんな人との交流の場ともなっている。

食事作り担当者からは、今日の食事や食材についての説明が行われ、食育の場、また感謝の気持ちが育つよう提供して下さった方の気持ちも伝えられています。

#### 3 まとめと今後の課題

経済的困窮に伴い、成長・発達に必要なエネルギーや栄養素を確保できない子ども達、経済的には満たされていても一人だけの食事等により心が満たされていない子どもも多くみられることから、学習支援と併せて行われる食事提供の場は、家庭や学校とまた違い、子ども達の安らぎの場となっています。

現在子どもの食事提供は、いろんなことを気にしなくて気持ちよく食べられるよう全員無料で行っています。これができることは、フードバンク信州、また、食材を提供して下さる県民の皆さんのお陰と感謝しています。提供された食材が適正に使用され、子ども達とともに食料支援を必要としている方に届くよう、献立作成や在庫管理に一層努力していくことが課題であると思います。これらが、一過性のブームで終わらないよう継続されていくことを願っています。

## 〔ある日の献立〕

### 献立

- ・ぶりの鍋照り焼き
- ・さつまいもと  
リンゴのレモン煮
- ・豚汁
- ・わかめご飯



- ・お正月には、なぜぶりを食べるか？  
ぶりになるまでには、名前がいくつ  
変わるでしょうか？
- ・だんだん大きくなり出世していく、  
おめでたい魚なのでお正月に頂きます。



### 食材

- フードバンク信州…… 12食材/22食材中 (54.5%)
- とまと館……ぶり20切れ
- 個人………7食材

## 〔3月20日 春休みスペシャル献立〕

### 献立

- ・スパゲッティナポリタン
- ・ツナサラダ
- ・クレープ
- ・カルボナーラソース
- ・サニーレタス
- ・スライスチーズ
- ・チョコディップ
- ・バナナ
- ・リンゴのコンポート  
カスタードソース
- ・飲み物  
リンゴジュース  
アクエリアス  
りんごドリンク



- ・卒業、終了祝いができました。  
卒業生が小学生2人、  
ボランティアのお兄さんが  
高校卒業でした。
- ・フードバンクさんのお陰で、  
豊かなパーティーができました。
- ・クレープを自分で焼いたり、  
巻いたりして食べました。  
自分で作って食べることは  
楽しいし、きっと思い出になる  
でしょう！

### 食材

- フードバンク信州…… 18食材/29食材中 (62.1%)
- 個人寄付……2食材
- 他に 飲み物3種、菓子2種類 (嗜好品類100%依存)

## ● 下伊那郡大鹿小学校食育活動

寄稿 大鹿村教育委員会 学校教育係 和田 瑠伊 さん

### ～フードバンク信州さんとのつながりのなかで～

3月16日食育の日の活動でフードバンク信州から食材の提供をいただきました。「自分で作って食べる」というテーマのもとに、器具の使い方、マナー、感謝、あいさつなど、身につけるべきことからスタートし、季節のメニューに取り組んだり、準備から片付けまで、一連を全員で行い、活動を通して協力しあう楽しさ、人の役に立つ喜びを知りました。そして「この食材はどこからどのようにしてここに届いたのか」「どのような人たちが、誰のために、どんな目的を持って届けてくれたのか」という部分を1年生から6年生まで、みんなで考えました。低学年には少々難しいこともあります。今後の活動を通して少しずつ理解してくれるといいなと思います。

このような活動は、今は意味が分からなくても大きくなってからきっと彼らに残る財産になると思います。幼少期に過ごすこの村でひとつでも多くのことを経験し、村外へ出て進学したり、社会に出るとき、幼いころの経験が自身の助けになるようにと願っています。

### 3月16日食育の日 参加者の感想

#### (こどもの声)

いろんな食料を送ってくれてうれしい、役に立つ。これからも続けてほしい。安心な食べ物を送ってくれてありがとう。



地元のお姉さんたちが指導に来てくれました。丁寧に教えてくれます。それを真剣に学び取る子どもたち。さあ、おいしいお昼ができるかな？

#### (こどもの声)

困っている人も助かるし、食材の無駄にもならないのですごく助かると思います。



#### (こどもの声)

食品ロスが減る活動なのでとてもいいと思います。そして、ほしい人にあげることができるのでいいと思いました。

できたー!!!ウインナーのタコ星人!小さい手で工作のように作りました。食べる人を思いながら作ります。いつも調理の時間は笑顔があふれています。

#### (こどもの声)

食べ物を多く捨てているけど、食べ物を食べたい!という人が多くいるのでいいと思います。そしてもっと活動が増えていくといいなと思いました。



3月のうちに2回の食育を計画しており、フードバンク信州からその分の食材が届きました。春休み中、施設の中で遊ぶ子どもたちや訪れた一般の方の目に留まるように、日中は常に正面玄関入口に置きました。





## フードバンク信州通信の発行



### フードバンク信州通信

2017年7月10日

第12号

発行：特定非営利活動法人  
フードバンク信州  
事務所 長野市黒田 1029-1  
TEL 026-269-0026  
FAX 026-269-0016  
info@foodbank-shinsyu.org

### 長野日大高校文化祭で フードドライブ 開催!!

7月4・5日に長野日大高校の文化祭で、高校としては初めてとなるフードドライブが開催されました。これは文化祭のボランティア担当の皆さんが、今年の活動テーマを『フードドライブ』に決め取り組んだものです。フードバンクの紹介やフードドライブ実施の必要性等の説明を、模造紙7枚に自分達の言葉で丁寧にわかり易くまとめフロア内に掲示しました。食料を持ち寄ってくれた生徒がパネルを真剣に読んでいたのが印象的で、関心を高める一つの機会になりました。集まった食品はフードバンク信州に寄付いただきました。



模造紙に手書きでまとめたフードバンクの説明  
食品を持ち寄ってくれた生徒とそれを受け取るスタッフの生徒

### NTT 東日本-関信越 長野支店から 災害備蓄セット 1365 個を 寄贈いただきました。

5月29日、NTT 東日本-関信越 長野支店から災害備蓄「あったかパレティSセット」1,365個(2,730kg)を寄贈いただきました。これはNTT 県下各支店の災害備蓄入れ替えにあたり、フードバンク信州に寄付いただくことになったものです。

1箱(3.2kg)の中味は、アルファ米を温かく食べるためのセットとして、1人3日9食分に当たる、マジックライス(ドライカレーやえびピラフ)、即席スープ(みそ汁や野菜スープ)、クラッカーやビスケットなど、多種多様な食品が入っていました。

これらは福祉事務所等を通して、生活が困難している方々に届けられました。



提供された「あったかパレティSセット」

### 長野西高等学校中条校が文化祭で フードドライブを開催しました

10月8日(日)に長野西高等学校中条校は長野市中央地区の運動会の会場で、フードドライブを開催しました。当日は22名の方から132点、27.6kgの食品が寄せられました。集まった食品はフードバンク信州に寄付いただきました。



地区の皆さんが協力してくれました  
生徒さんのフードドライブ信州に届けられました

## 活動報告としてFaceBookを2017年11月より開始 (2018年3月現在フォローは68)



↓三洋グラビア株式会社様の社内で開催されたフードドライブの様子



→シニア大学のフードドライブの様子







個大鹿村教育委員会主催の「児童クラブ食育の日」に掲載した様子と、開催した報告書と児童の感想

独立行政法人福祉医療機構 平成29年度社会福祉振興助成事業  
—— 食を通じた地域支え合いネットワーク事業 ——

## 報告書

---

- 発行日 ● ——— 2018年3月20日
- 発行人 ● ——— 佐藤 豊
- 企画執筆 ● ——— 美谷島 越子 / 小松 由人
- 発行元 ● ——— 特定非営利活動法人フードバンク信州  
〔本部〕  
〒381-0034 長野市大字高田1029-1  
〔長野事務所〕  
〒380-0921 長野市栗田950-6 メゾン栗田102号  
TEL 026-219-3215 FAX 026-219-3216  
E-mail : info@foodbank-shinshu.org  
<http://foodbank-shinshu.org/>
- デザイン ● ——— (株)イメージハウス・プロダクション
- 編集・印刷 ● ——— Creative EYES

※本書より転載・複製する場合には、特定非営利活動法人フードバンク信州の許可を得てください。

# 活動する人は アナタです!!



独立行政法人福祉医療機構 助成事業  
—— 食を通じた地域支え合いネットワーク事業 ——  
**報告書**



特定非営利活動法人 **フードバンク信州**

〔本部〕

〒381-0034 長野市大字高田1029-1

〔長野事務所〕

〒380-0921 長野市栗田950-6 メゾン栗田102号

TEL 026-219-3215

FAX 026-219-3216

E-mail : [info@foodbank-shinshu.org](mailto:info@foodbank-shinshu.org)

<http://foodbank-shinshu.org/>

